

## 大相撲名古屋場所における当院柔道整復師の救護 支援活動の現状について

米田病院  
児山将之 羽生 優 西條嘉人  
米田 實

### 【はじめに】

当院では毎年大相撲名古屋場所に職員の柔道整復師2名を派遣し、テーピング・RICEなどの応急手当や医療機関への搬送支援などを中心とした救護支援活動を行っている。この活動は約40年前から現在まで当院の柔道整復師によって継続されてきた。近年、来室者数は急増しており、救護活動の需要が高まっている。今回活動内容の現状についてまとめたので報告する。

### 【柔道整復師の業務範囲】

骨折、脱臼、打撲、捻挫の患部に施術をできるが、医師の同意を得た場合のほか、脱臼又は骨折の患部に施術をしてはならない。ただし、応急手当をする場合には、この限りではない(柔道整復師法第17条)。

### 【大相撲名古屋場所応急対応の人的資源】

当院の医療体制は柔道整復師2名、活動内容は応急手当や医療機関搬送への支援、場所は控え室内の一角にカーテンで仕切った一室を使用、待機時間は午前8時30分から18時30分、初日から千秋楽まで毎日である。

他の医療支援体制として、某名古屋場所後援新聞社直営病院から看護師2名、活動内容は創傷などの応急処置や内科的対応、場所は控え室出入口付近の一室を使用、待機時間は1日3～4時間程度で不定期である。

### 【調査対象】

平成17年から平成20年の4年間で、取り組み初日から千秋楽までの合計60日間に我々当院の柔道整復師が待機する救護室に来室した力士延べ1,276名を、施術を受けた1,009名と擦過創や腹痛など施術対象外であった267名に分類し調査を行った。

### 【調査内容】

- ①件数の推移について：来室者数の内訳として施術対象者、施術対象外者、平均人数
- ②施術内容について：施術の種類、緊急時の対応
- ③傷害部位について：頻度の高い傷害部位

### 【結 果】

#### ①件数の推移

平成17年には750名の力士が出場し、合計236名が来室した。平成20年には729名の力士が出場し、合計433名が来室した。なお、この調査には一場

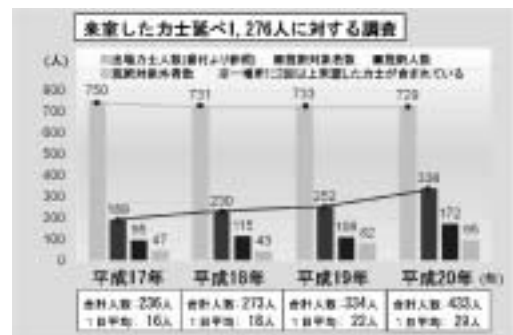


図1

所に2回以上来室した力士が含まれている(図1)。

### ②施術内容

施術の種類ではテーピングが最も多く、次いで包帯固定、アイシングの順に多い結果となった。最も多かったテーピングは施術を受けた力士1,009名中、616名と、約61%の力士に施行されていた。なお、この調査では取り組みの前後は分類していない(図2)。

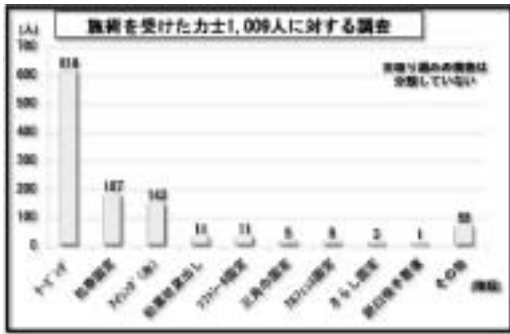


図2

また緊急時の対応としてケガをした力士で臨床症状が著明な場合には応急手当を行った後、医療機関へ受診して頂いている。毎年、数名が当院へ受診していた。

### ③傷害部位

来室した力士1,276名の傷害部位の総数は1,372ヶ所であった。この中には2ヶ所以上傷害のあった者が含まれている。傷害部位を頭部・体幹、上肢、下肢に大別すると、頭部・体幹約10%、上肢約30%、下肢約59%であり、下肢の傷害が半数以上を占めていた。その中でも膝関節部、次いで

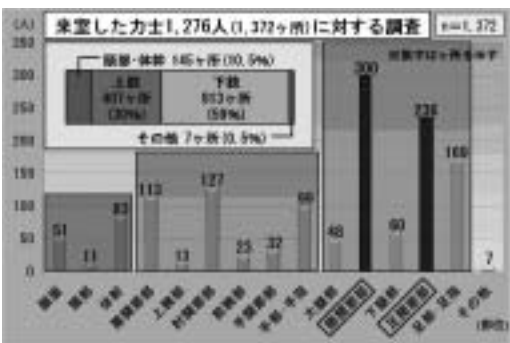


図3

足関節部に多い結果となった。なお、左右差については各部とも特徴的な傾向はみられなかった(図3)。

### 【救護活動材料費】

現在、テーピングなどの救護支援材料は全て当院からの持ち出しである。救護活動の需要も高まり、年々材料費が増加しているため、今後も同様のサービスを継続できるかは未定である。

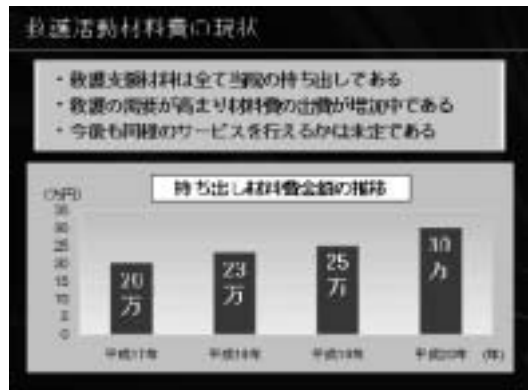


図4

### 【まとめ】

- 大相撲名古屋場所での救護活動について報告した。
- 施術を受ける力士の人数には年々増加傾向がみられた。
- 施術内容ではテーピングが最も多く、次いで包帯固定、アイシングの順に多い結果となった。
- 傷害部位では膝関節部が最も多く、次いで足関節部と下肢に多い傾向がみられた。

### 【参考文献】

- 1) 関係法規：全国日本柔道整復師学校協会 医歯薬出版株式会社編集：20，2008